



# SPARC® Enterprise M4000/M5000サーバ プロダクトノート

---

XCP 1050 版

Copyright 2007 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. および富士通株式会社 〒 211-8588 神奈川県川崎市中原区上小田中 4-1-1, Japan. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社は、それぞれ本書に記述されている製品および技術に関する知的所有権を所有または管理しています。これらの製品、技術、および本書は、著作権法、特許権などの知的所有権に関する法律および国際条約により保護されています。これらの製品、技術、および本書に対して Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社が有する知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付随する製品および技術は、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。富士通株式会社と Sun Microsystems, Inc. およびそのライセンサーの書面による事前の許可なく、このような製品または技術および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。本書の提供は、明示的であるか黙示的であるかを問わず、本製品またはそれに付随する技術に関するいかなる権利またはライセンスを付与するものでもありません。本書は、富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. の一部、あるいはそのいずれかの関連会社のいかなる種類の義務を含むものでも示すものでもありません。

本書および本書に記述されている製品および技術には、ソフトウェアおよびフォント技術を含む第三者の知的財産が含まれている場合があります。これらの知的財産は、著作権法により保護されているか、または提供者から富士通株式会社および/または Sun Microsystems, Inc. へライセンスが付与されているか、あるいはその両方です。

GPL または LGPL が適用されたソースコードの複製は、GPL または LGPL の規約に従い、該当する場合に、お客様からのお申し込みに応じて入手可能です。富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. にお問い合わせください。

この配布には、第三者が開発した構成要素が含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに由来しています。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴ、Java、Netra、Solaris、Sun Ray、Answerbook2、docs.sun.com、OpenBoot、および Sun Fire は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。

富士通および富士通のロゴマークは、富士通株式会社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、Sun Microsystems, Inc. が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

SPARC64 は、Fujitsu Microelectronics, Inc. および富士通株式会社が SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の商標です。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、Sun Microsystems, Inc. が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。Sun Microsystems, Inc. は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザー



Please  
Recycle



Adobe PostScript

インタフェースの概念の研究開発における Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。Sun Microsystems, Inc. は Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK GUI を実装しているかまたは Sun の書面によるライセンス契約を満たす Sun Microsystems, Inc. のライセンス実施権者にも適用されます。

United States Government Rights - Commercial use. U.S. Government users are subject to the standard government user license agreements of Sun Microsystems, Inc. and Fujitsu Limited and the applicable provisions of the FAR and its supplements.

免責条項：本書または本書に記述されている製品や技術に関して富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社が行う保証は、製品または技術の提供に適用されるライセンス契約で明示的に規定されている保証に限ります。このような契約で明示的に規定された保証を除き、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. およびそのいずれかの関連会社は、製品、技術、または本書に関して、明示、黙示を問わず、いかなる種類の保証も行いません。これらの製品、技術、または本書は、現状のまま提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われないものとします。このような契約で明示的に規定されていないかぎり、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社は、いかなる法理論のもと第三者に対しても、その収益の損失、有用性またはデータに関する損失、あるいは業務の中断について、あるいは間接的損害、特別損害、付随的損害、または結果的損害について、そのような損害の可能性が示唆されていた場合であっても、適用される法律が許容する範囲内で、いかなる責任も負いません。

本書は、「現状のまま」提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われないものとします。



# 目次

---

はじめに	vii
SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバのサポートについて	vii
技術サポート	vii
ソフトウェアリソース	vii
マニュアルへのアクセス	viii
コメントの送付先	viii
SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ プロダクトノート	1
サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン	1
パッチに関する情報	2
既知の問題	3
一般的な機能の問題と制限	3
Solaris 10 8/07で修正される問題と制限	4
XCP1050に伴う注意事項	4
XSCF Webに伴う注意事項	4
ハードウェアのインストレーションおよびサービスに関する問題	5
特定の問題と回避方法	5
19インチラック搭載時の注意事項	6
ハードウェアマニュアルの変更予定	8
電氣的仕様	10

ケーブル接続	11
『SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ サービス マニュアル』の訂正	12
PCIカセットの増設	12
DIMMの交換	13
ソフトウェアに関する問題	15
XCPに関する特定の問題と回避方法	15
Solarisに関する特定の問題と回避方法	22
ターゲットボードのカーネルメモリの識別	31
XCP 1050へのアップグレード準備	31
XCP 1050へのアップグレード	32
ソフトウェアマニュアルの変更予定	35

# はじめに

---

本書では、SPARC® Enterprise M4000/M5000サーバ、ソフトウェア、および出版後に見つかったドキュメントに関する最新の情報を説明します。

---

## SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバのサポートについて

### 技術サポート

SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバのドキュメントで取り上げられていない技術上の問題または質問がありましたら、営業担当者または当社技術員までご連絡ください。

### ソフトウェアリソース

SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバにはSolaris™ オペレーティングシステム (OS) およびSun Java™ Enterprise System softwareがプレインストールされています。

SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバのソフトウェアリソースについては、営業担当者または当社技術員までご連絡ください。

---

注 – 最新のパッチ情報は以下を参照してください。

日本語サイト

<http://software.fujitsu.com/jp/security/products-others/unix/index.html>

グローバルサイト

<http://www.fujitsu.com/global/support/software/security/products-s/patch-info/>

インストールに関する情報とREADMEファイルもパッチと一緒にダウンロードされます。

---

## マニュアルへのアクセス

SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバのインストール、管理、使用のための手順は、SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバのマニュアルセットに示されています。マニュアルセットは、以下のウェブサイトからダウンロード可能です。

日本語サイト

<http://primeserver.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/>

グローバルサイト

<http://www.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/>

---

注 – 本書で説明する情報は、SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバのマニュアルセットの情報よりも優先されます。

---

Solaris 関連のマニュアル

<http://www.sun.com/documentation>

## コメントの送付先

本マニュアルに関するご意見、ご要望または内容に不明確な部分がありましたら、マニュアル番号、マニュアル名称、ページおよび具体的な内容を営業担当者または当社技術員にお知らせください。

なお、コメントをお寄せいただくときは、対象となるドキュメントの名称およびマニュアル番号もあわせてお知らせください。

# SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ プロダクトノート

---

本書では、SPARC® Enterprise M4000/M5000サーバ、ソフトウェア、および出版後に見つかったドキュメントに関する最新の情報を説明します。本書は、以下の内容を含んでいます。

- サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン
- パッチに関する情報
- 既知の問題
- XCP1050に伴う注意事項
- XSCF Webに伴う注意事項
- ハードウェアのインストレーションおよびサービスに関する問題
- ハードウェアマニュアルの変更予定
- ソフトウェアに関する問題
- ソフトウェアマニュアルの変更予定

---

## サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン

本リリースでは、次に示すバージョンのファームウェアおよびソフトウェアがサポートされています。

- XSCF Control Package (XCP) 1050以降

XCPは、以下のウェブサイトからダウンロード可能です。

<http://primeserver.fujitsu.com/sparcenterprise/download/firmware/>

---

**注** - ご使用の製品にXCP 1050より古い版数がプレインストールされている場合は、XSCF Control Package (XCP) 1050以降にアップデートする必要があります。ブラウザユーザーインターフェース (BUIとも呼ばれます) を使用してXCPをインポートし、XSCF Shellの`flashupdate`コマンドを使って新しい版を適用してください。

---



---

**注意** - CR ID #6534471 : カーネルメモリ内ラージ・ページの扱いが不適切なため、予期せぬパニックが発生することがあります。本プロダクトノートに記載されているCR ID #6534471 の回避方法を実施するか、もしくはパッチが入手可能かどうか確認し、ただちにインストールしてください。これは、125100-06 および Solaris 10 8/07 で修正されました。

---

- 本サーバは、Solaris 10 11/06 以降のSolarisをサポートしています。
  - 今回リリースされるXCPは、Capacity on Demand (COD) 機能をサポートしています。
- 

**注** - 今後のCOD Right To Use (RTU)ライセンス追加をサポートするため、SPARC Enterprise M4000/M5000サーバはすべて、XCP1050にアップグレードする必要があります。最寄りの営業担当者にお問い合わせください。

---

---

## パッチに関する情報

以下がSPARC Enterprise M4000/M5000 サーバの必須パッチとして提供されています。

これらのパッチは、Solaris 10 8/07が動作しているサーバには必要ありません。

- 118833-36 (125100-04の前に118833-36をインストールしてください。)
  - 125100-04以降
  - 120068-03以降
  - 123839-07以降
  - 125424-01以降
  - 125075-01以降
- 

**注** - viiページの「ソフトウェアリソース」を参照し、最新パッチの入手方法を確認してください。インストールに関する情報とREADMEファイルがパッチと一緒にダウンロードされます。

---

---

# 既知の問題

ここでは、本リリース時に既知の問題を説明します。

## 一般的な機能の問題と制限

- ZFS ファイルシステムを使用したドメインは DR を行うことができません。
- SPARC Enterprise M4000/M5000サーバは、停止交換で使用します。CPU/メモリーボードユニット (CMU) やI/Oユニット (IOU) およびXSCFユニットの活性交換はサポートしていません。
- このXCPリリースでは、XSCF Webブラウザインターフェース (BUIとも呼ばれます) は、CODおよびPCIボックス管理機能をサポートしていません。
- XSCF Webブラウザインターフェース (BUIとも呼ばれます) は、本リリースでは以下の機能を新たに提供しています。
  - ドメイン/システム操作機能
  - XSCFファームウェアの設定に関する機能
  - ログ情報参照
  - コンポーネント構成情報表示
- `setupplatform(8)` コマンドは、本リリースではサポートしていません。
- XSCFをドメインのNTPサーバとする場合は、XSCFが参照するDNSサーバおよびNTPサーバのICMPプロトコルをブロックしないように設定してください。
- 外部電源制御装置(F7973RC1)の外部電源制御インターフェース (EPC)を使用するとき、次の通知信号はサポートしていません。
  - OSパニックまたは本体装置ハードウェア異常信号 (\*CPUN/RTNU)
  - 本体装置ハードウェア異常信号(電源異常、温度異常、ファン異常) (\*ALARM)
- PCIe Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP cards (1027A-Z/X1027A-Z) には、下記の制限が適用されます。
  - 各ドメインで、カードを3枚以上使用することはできません。
  - PCIボックスで、これらのカードを使用することはできません。
- PCIe Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP cards (4447A-Z/X4447A-Z) には、下記の上限が適用されます。
  - 各I/Oポートで、カードを3枚以上使用することはできません。
  - SPARC Enterprise M4000サーバでは、カードを5枚以上使用することはできません。
  - SPARC Enterprise M5000サーバでは、カードを9枚以上使用することはできません。

## Solaris 10 8/07で修正される問題と制限

- Dynamic Reconfiguration（動的再構成、DR）は、次の場合においては、DRの `addboard(8)`、`deleteboard(8)`、`moveboard(8)` コマンドの以下の制約により、推奨されません。  
追加情報およびソフトウェアサポートについては、営業担当者または当社技術員にご連絡ください。
  - 特定のカードに一部制限があるため、オプションI/Oカードを搭載したターゲットボード（SB/XSB）



---

**注意** – サポートされていない構成で DR を行うと、ドメインパニックやシステムハングを起こす場合があります。

---

- PHP機能は、本リリースでは利用できません。追加情報とソフトウェアのサポートについて営業担当者または当社技術員にお問い合わせください。

---

## XCP1050に伴う注意事項

以下の語はシステムに予約されているため、ユーザーアカウント名に使用することはできません。

`root`、`bin`、`daemon`、`adm`、`operator`、`nobody`、`sshd`、`rpc`、`rpcuser`、`ldap`、`apache`、`ntp`、`admin`、`default`

---

## XSCF Webに伴う注意事項

- XSCF Webを使用し、XCPのインポートまたはファームウェアをアップデートする場合、ウェブブラウザ上に `Session ID error` が表示される場合があります。また、`Autologout` 設定でタイムアウト時間を30分以上で指定すると、ファームウェアアップデートの際に `Internal Server Error` が表示される場合があります。
- XSCF Webを使用する時、ブラウザに検索ツールなどのプラグインが組み込まれている場合は、プラグインを削除する、またはポップアップブロック設定を無効にしてください。

# ハードウェアのインストールおよびサービスに関する問題

ここでは、ハードウェアに関する問題と回避方法を示します。

## 特定の問題と回避方法

表 1 は既知のハードウェアの問題と回避方法を示します。

表 1 特定の問題と回避方法

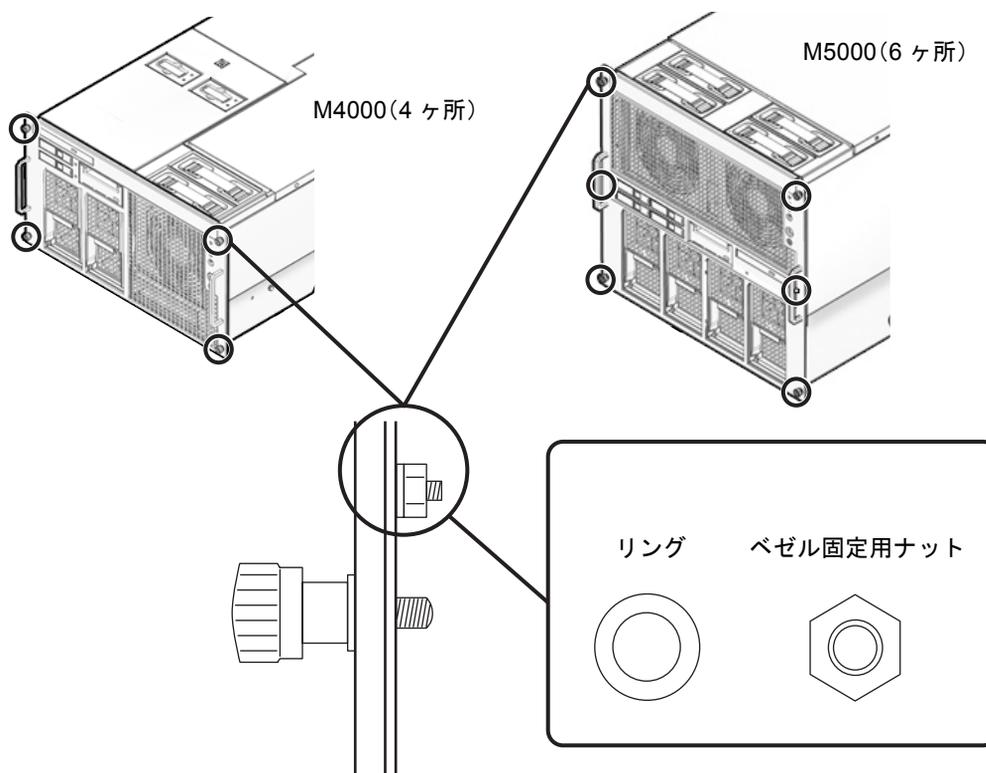
CR ID	説明	回避方法
6433420	ブート中、ドメインコンソールがMailbox timeoutまたはIOCB interrupt timeout errorを表示することがあります。	OBP (OK)プロンプトからreset-allコマンドを発行し、リブートしてください。
6488846	ブート中、ドメインコンソールがSG(X)PCI2SCSIU320-Z SCSIコントローラI/Oカードのchecksum errorを表示することがあります。	最新のコントローラカードファームウェアが提供されているかご確認ください。
6498780	SPARC Enterprise M4000/M5000サーバ上、OpenBoot PROM (OBP) がオンボードディスク (HDD) ブートデバイスを検出しないことがあります。boot diskコマンドを実行すると、以下のコンソールメッセージが表示されます。 Can't locate boot device	PCIまたはPCI-Xプラグインアダプターカードが正しく取り付けられていない可能性があります。IOUのslot 0のカードを取り付けなおしてください。

## 19インチラック搭載時の注意事項

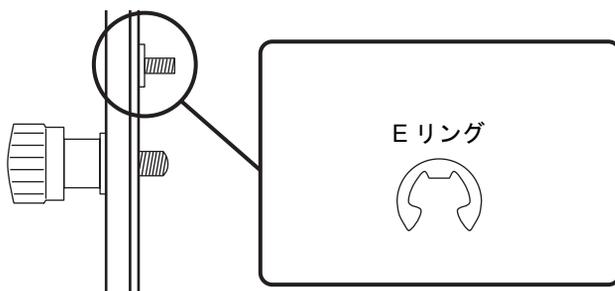
M4000およびM5000サーバを19インチラックに搭載する場合、装置をラック奥まで挿入したときに、ベゼル固定用ナットがラック柱に干渉して、正しく固定できないことがあります。

このような場合、ベゼルを固定しているナットとリングをEリングに交換してください。

1. 干渉するベゼル固定用ナットとリングを装置から外します。



2. 外したナットとリングの代わりに、ラックキットに添付されているEリングを取り付けます。



3. 装置をラックの奥まで挿入し、固定します。

# ハードウェアマニュアルの変更予定

表 2 では、今後のマニュアルの変更予定を示します。

表 2 マニュアルの変更予定

マニュアル	ページ	変更内容
SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバに関するすべてのドキュメント		DVD という表記は、すべてCD-RW/DVD-RWと読み替えてください。 ケーブル管理アームという表記は、ケーブルマネージメントアームと読み替えてください。 以下の用語の定義が更新されています。 <b>PCI</b> ボックス PCIスロットを増設するための外付けのデバイス。PCIe接続を介してシステムのI/Oユニットに接続され、1つまたは2つのI/Oポートを持つ。 <b>I/O</b> ポート PCIボックス内のI/Oユニット。I/Oポートは、PCI-Express (PCIe)スロットに、I/Oポート上のPCIe switchまたはPCI-X bridgeを介して接続し、6つのPCI-Xスロットまたは6つのPCIeスロットのいずれかを提供する
SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ 設置計画マニュアル	1-5	「表1.3 ミッドレンジサーバの物理仕様」 奥行き正しい値は、SPARC Enterprise M4000/M5000サーバ共に、810mm/31.9 in.です。
SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ インストールガイド	2-5	「表2.4 電源プラグとコンセント形状」 変更した内容は、11ページの「 <a href="#">ケーブル接続</a> 」を参照してください。
SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ インストールガイド	3-3	「3.3 管理コンソールの接続」 図3.1の一番上にあるRJ-11コネクタにラベルが付いていません。RJ-11コネクタは、TNV回路への接続用ではありません。このコネクタを使わないでください。
SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ サービスマニュアル	1-4	「1.3.4 コンポーネントの取り扱い」 以下の注意文を追加します。 <b>⚠ 注意</b> PCIカセット部でLANケーブルなどを抜くときに、コネクタのロック部まで手が入らない場合は、マイナスドライバーでロック部を押してケーブルを抜いてください。無理やり指を入れるとPCIカードが破損する恐れがあります。

表 2 マニュアルの変更予定 ( 続き )

マニュアル	ページ	変更内容
SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ サービスマニュアル	4-9	<p>「4.4.3 手動によるサーバの電源切断の手順4」</p> <p>「オペレーターパネルのステータスXSCF STANDBY LED が消灯していることを確認します。」という記述は、</p> <p>「オペレーターパネルのステータスPower LED が消灯していることを確認します。」と読み替えてください。</p>
SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ サービスマニュアル	8-4	<p>「8.1.2 PCIカセットの減設の手順1」</p> <p>SPARC Enterprise M4000サーバのケーブル管理アームは、なくなります。これに伴って、以下の注意文を削除します。</p> <p>注) SPARC Enterprise M4000サーバのケーブル管理アームがPCIカセットへのアクセスの妨げとなることがあります。アームが曲がったままになってしまうことがあるため、アームを無理に脇に移動しないでください。クイックリリースボタンを引き、アームのスライド側を抜きます。アームのスライド側を抜くと、カセットを減設するときに、アームを安全に脇に保持しておくことができます。</p> <p>代わりに、以下の注意文を追加します。</p> <p><b>⚠ 注意</b> LANケーブルなどを抜くときに、コネクタのロック部まで手が入らない場合は、マイナスドライバーでロック部を押してケーブルを抜いてください。無理やり指を入れるとPCIカードが破損する恐れがあります。</p>
SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ サービスマニュアル	8-4	<p>「8.1.3 PCIカセットの増設」</p> <p>変更した内容は、12ページの「<a href="#">PCIカセットの増設</a>」を参照してください。</p>
SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ サービスマニュアル		<p>「停止交換」</p> <p>「この手順には、キースイッチをService の位置まで回し、LEDの状態を確認して、電源ケーブルを抜く操作が含まれます。」という記述は、</p> <p>「この手順には、キースイッチをService の位置まで回し、Power LED が消灯していることを確認して、電源ケーブルを抜く操作が含まれます。」と読み替えてください。</p>

表 2 マニュアルの変更予定 ( 続き )

マニュアル	ページ	変更内容
SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ サービスマニュアル	9-1 15-1	「第9章 XSCF Unitの交換」 「第15章 オペレーターパネルの交換」 以下の文章を追加します。 <b>重 要</b> XSCFユニットとオペレーターパネルを同時に交換すると、システムが正常に動作しなくなります。showhardconfコマンドまたはshowstatusコマンドで先に交換した部品が正常であることを確認してから、次のFRUの交換を行ってください。
SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ サービスマニュアル	11-6	「11.2 DIMMの交換」 変更した内容は、13ページの「DIMMの交換」を参照してください。
SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ サービスマニュアル	C-6	「表C.5 電源の機能」 変更した内容は、10ページの「電氣的仕様」を参照してください。

## 電氣的仕様

SPARC Enterprise M4000/M5000サーバ サービスマニュアル (表C. 5) の一部は、次のように変更されます。

表 3 電源の機能

	SPARC Enterprise M4000 サーバ	SPARC Enterprise M5000 サーバ
消費電力 (最大限)	2016W	3738W
皮相電力	2058 VA	3815 VA
発熱量	6879 BTUs/hr (7258 kJ/hr)	12754 BTUs/hr (13457 kJ/hr)

## ケーブル接続

SPARC Enterprise M4000/M5000サーバ インストールガイド（表2.4）の一部は、次のように変更されます。

表 4 電源プラグとコンセント形状

システム	場所	電源ケーブルタイプ
SPARC Enterprise M4000サーバ	アメリカ、台湾	NEMA L5-15 125V 15A
	日本、韓国、	NEMA L6-20 250V 20A
	その他の国々	IEC60309 16A 250V、3PIN/IEC320 C20
SPARC Enterprise M5000サーバ	アメリカ、台湾	NEMA L5-15 125V 15A
	日本、韓国、	NEMA L6-20 250V 20A
	その他の国々	IEC60309 16A 250V、3PIN/IEC320 C20

# 『SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ サービス スマニュアル』の訂正

次の情報は、『SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ サービススマニュアル』の情報よりも優先されます。

## PCIカセットの増設



---

**注意** – PCI カセットをスロットに無理に取り付けしないでください。そうすると、カセットやサーバを損傷させることがあります。

---

1. PCIカセットの位置をプラスチック製の灰色のガイドに合わせ、PCIカセットをスロットに増設します。
2. レバーを所定の位置にロックして、カセットを装着します。

---

**注** – レバーを動かすと圧力が生じ、所定の位置にロックする直前に、圧力が急に開放されます。圧力が開放されないままレバーを所定の位置にロックすると、カードが正しく装着されないことがあります。これが起きると、カードを減設し、増設しなおす必要があります。

---

---

**注** – 活電交換を使用してPCIカセットを装着する場合は、カセットの電源投入と構成が自動的に行われます。カセットが正しく装着されていることを確かめるには、カセット上のPower LEDが点灯していることを確認してください。

---

3. PCIカセットにすべてのケーブルを接続し、必要に応じてケーブル管理アームを再接続します。

## DIMMの交換

DIMMは、停止FRU交換コンポーネントです。DIMMを交換するには、サーバ全体の電源を切って、電源コードを抜く必要があります。

図 1 は、メモリボードのメモリスロットの位置を示します。

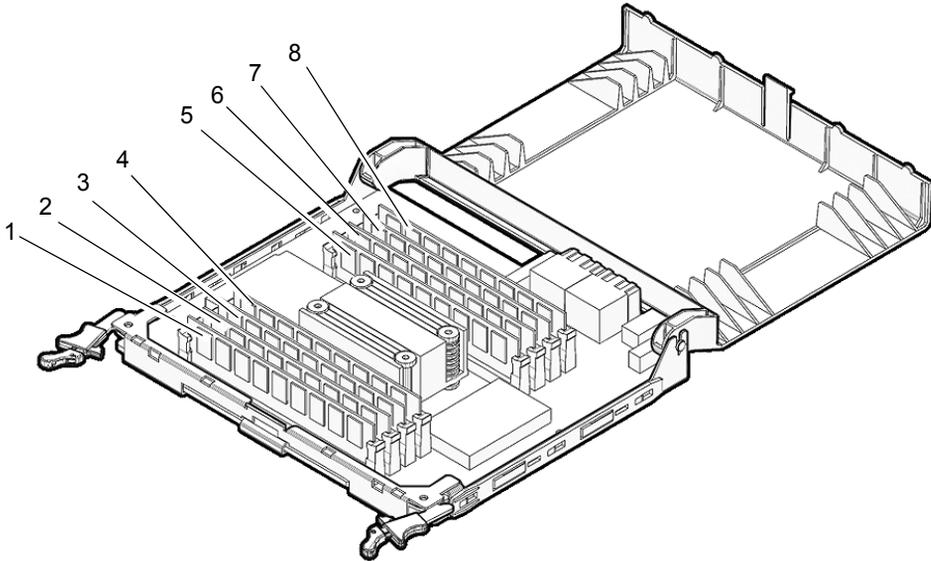


図 1      メモリボードの DIMM スロットの番号付け

位置番号	コンポーネント
1	MEM#2A、メモリスロット (グループ A)
2	MEM#2B、メモリスロット (グループ B)
3	MEM#3A、メモリスロット (グループ A)
4	MEM#3B、メモリスロット (グループ B)
5	MEM#1B、メモリスロット (グループ B)
6	MEM#1A、メモリスロット (グループ A)
7	MEM#0B、メモリスロット (グループ B)
8	MEM#0A、メモリスロット (グループ A)

メモリボードは、SPARC Enterprise M4000サーバでは最大4枚、SPARC Enterprise M5000サーバでは最大8枚まで実装することができます。メモリボード上のDIMMは、グループAおよびグループBのグループに分割されます。

DIMMの実装条件は次のとおりです。

- DIMMはグループ毎に4枚単位で実装されます。
- グループAのDIMMの容量は、グループBのDIMMの容量以上でなければなりません。グループBにはDIMMを搭載しなくてもかまいません。
- グループA内のDIMM、グループB内のDIMMは同一容量、種別（rank）のものを搭載してください。グループ内で異なる容量のDIMMは混在できません。

異なる容量、種別（rank）のDIMMに交換する場合は、同一CMU内のすべてのメモリボードにおいて上記条件を守る必要があります。

# ソフトウェアに関する問題

ここでは、ソフトウェアに関する問題と回避方法を示します。

## XCPに関する特定の問題と回避方法

表 5 に、既知の問題とこれらの問題に対して実行可能な回避方法を示します。

表 5 XCPに関する特定の問題と回避方法

ID	説明	回避方法
RTIF1-070418-005	ブート中のSCFにログインすると、XSCF>プロンプトの代わりにbash\$プロンプトを取得し、ほとんどの操作を実行できなくなることがあります。	bash\$プロンプトをログアウトし、XSCFがブートを完了するまで待ってください。
RTIF1-070418-009	XSCFが動作中、XSCFコンソールにOOM Killのエラーメッセージが表示され、プロセスダウンやwatchdogタイムアウトが発生し、XSCFがリブートする場合があります。	XSCF が起動されていることを確認してください。 起動されていない場合は、rebootxscf(8) コマンドによりXSCF を再起動するか、 全ドメインを停止後システムの電源切断/投入 (AC OFF/ON) を実行してください。
RTIF1-070418-010	showdomainstatus -a コマンドではドメインステータスがPowered Offと表示されますが、showboards -a コマンドではドメインがテスト中と表示されます。	showboardsコマンドを使用して、ドメイン電源のステータスを確認してください。 showdomainstatusコマンドでは、正しいステータスを表示するのに、より時間がかかります。
RTIF1-070418-011	コンフィギュレーションデータをアップデートするコマンドに、実行に比較的長い時間を要するものがあります。	set* コマンドをキャンセルしないでください。これらのコマンドはハングしたように見えますが、最終的には約30秒以内に完了します。
RTIF1-070418-012	fault (memory.block.ue)が周期的に見つかり、報告されます。	あるDIMMの中にuncorrectable error が存在しており、このDIMMは交換されるべきです。
RTIF1-070418-020	XSCF Web を使用してファームウェアイメージをインポートするときにイメージが破損した (たとえばインポート中にブラウザウィンドウが閉じられた) 場合、後にflashupdate コマンドで内部エラーが報告されることがあります。CR ID6537996 も同様です。	コマンドgetflashimage -d を使用し、破損したイメージを削除します。必要に応じて、XSCFユニットをリブートしてから、再度flashupdate コマンドを使用して内部エラーをクリアします。

表 5 XCP に関する特定の問題と回避方法 ( 続き )

ID	説明	回避方法
RTIF1-070418-023	rebootxscf(8)コマンドを使用すると、process down errorになることがあり、これはMSG ID SCF-8005-NEのFMA eventの可能性あります。	このイベントは、無視してください。
RTIF1-070418-025	showaudit all コマンドが、データベースのクリア後、policy sectionにdefaultsの長いリストを表示します。	以下の設定で、データベースをアップデートしてください。 setaudit -a opl=enable setaudit -a opl=default
RTIF1-070528-002	XSCFが動作中、watchdogタイムアウトが発生し、XSCFがリブートする場合があります。	XSCF が起動されていることを確認してください。 起動されていない場合は、rebootxscf(8) コマンドによりXSCF を再起動するか、全ドメインを停止後システムの電源切断/投入 (AC OFF/ON) を実行してください。
RTIF1-070802-001	telnetした時、loginまたはpasswordプロンプトが表示されません。	telnet接続を一度切断し、再度telnetしてください。
RTIF1-070823-001	XSCF Webを使用してsnapshot画面で、SSHを選択したとき、Host, Directory, ID, Passwordの入力可能文字数がXSCFシェルでの入力可能文字数と一致しません。	XSCF Webでの入力可能文字数を越えるような値を指定したい場合は、XSCFシェルを使用してください。
RTIF1-070823-002	XSCF WebでLogical Treeを表示したとき、ドメインの構成に依存して、同一ドメインが複数表示される場合があります。	Menuの項目からSystem Board Configurationを選択し、XSB Status (All)からドメイン構成を参照してください。または、showboards(8)コマンドを使用して、ドメイン構成を参照してください。
RTIF1-070823-003	XSCF WebでLogical Treeを表示したとき、ドメインに割り当てられているCPUやメモリのハードウェア構成が、実際のドメイン構成と異って表示されます。	Menuの項目からDevice Statusを選択してドメインのハードウェア構成を参照してください。または、showdevices(8)コマンドを使用して、ドメインのハードウェア構成を参照してください。
RTIF1-070824-001	ドメインの電源連動機能のリモート電源制御モードを有効にしている場合、XSCFユニット交換後、RCIによる電源連動が作動しなくなる。	XSCFユニット交換後、RCIを再構築し、リモート電源制御モードを設定してください。
RTIF1-070824-002	XSCF WebでDomain Mode Configurationを選択し、各設定を行ったとき、ポップアップ画面が表示されず、画面上に"Undefined"が表示される場合があります。	再度、Domain Mode Configurationを選択して設定を行ってください。 または、一旦、XSCF Webを終了させてから、設定を行ってください。

表 5 XCP に関する特定の問題と回避方法 ( 続き )

ID	説明	回避方法
RTIF1-070824-003	XSCF WebでFirmware Update画面からXCPのインポート中に、REFRESHボタンを実行した場合、"Uploading Now!"のポップアップが消失し、XCPのインポートが異常終了します。	現時点では、有効な回避方法はありません。
RTIF1-070824-004	XSCF WebでDomain Status画面から、Domain Component Listに表示されているXSBを選択したとき、選択したXSBが未搭載またはUni-XSBの場合、ポップアップ画面に何の情報も表示されません。	現時点では、有効な回避方法はありません。
RTIF1-070824-005	XSCF WebでMonitor Message FrameのRefresh Interval値を変更したとき、"Confirmation Domain mode" の不当なポップアップが表示される場合があります。	ポップアップ画面を無視して画面を閉じてください。
RTIF1-070824-006	タブブラウザで同一ホストに対し、異なるユーザー権限のユーザーアカウントで複数ログインすると、最後にログインしたユーザーアカウントのユーザー権限が、ログイン済のページにも適用されてしまいます。	タブブラウザを使用する場合、同一ホストに対して複数ログインしないでください。
RTIF1-070824-007	XSCF Webで設定を変更する場合、確認ダイアログでキャンセルを選択したり、強制クローズすると、元の設定ページが使用できない状態になる場合があります。	Menuの項目から元の設定ページを再選択してください。
RTIF1-070824-008	Domain Configuration画面で未定義のDomain IDを選択するとConfiguration policy情報が前に表示した内容のままとなっています。	現時点では、有効な回避方法はありません。
RTIF1-070824-009	System Board Configuration画面でDetailを実行するとMBUのCPUMとメモリのすべてがPSB#0側に搭載されているように表示されます。 また、PSB#0の詳細表示において、メモリが22枚+2枚と表示されます。	現時点では、有効な回避方法はありません。
RTIF1-070824-011	FireFox2を使用し、Domain Configuration画面のConfiguration policy設定で稼働中のdomainを指定した場合、エラー表示ポップアップのBackボタンをクリックし、情報再表示のための問合せ画面でCancelボタンをクリックするとエラーメッセージ画面のままとなります。	Menuの項目からDomain Configurationページを再選択してください。
RTIF1-070904-002	Snapshot CLIが書き込み保護設定をしているUSBスティックに書き込みを試みると、I/Oエラーとなります。	書き込み保護されたUSBデバイスを使ってshapshot収集を試行しないでください。

表 5 XCP に関する特定の問題と回避方法 ( 続き )

ID	説明	回避方法
RTIF1-070904-003	誤ったdomain状態が報告されます。ドメインに対し、sendbreakコマンドが発行された後、ドメインが実際には "ok" プロンプトになっていても、showdomainstatusコマンドは "Running" の状態を表示し続けます。	回避方法はありません。これは、sendbreakの正しい動作です。
RTIF1-070904-004	showarchivingのlatest communication フィールドが定期的にアップデートされません。	archivingをいったん無効にしてから再度有効にすると、showarchivingのアウトプットのLatest communicationがリフレッシュされません。
RTIF1-070904-005	NTPサーバと時刻同期ができません。	NTPサーバのstratum値を確認してください。XSCFのstratum値は"5"です。XSCFが参照するNTPサーバは、stratum値が5より小さいサーバである必要があります。参照するNTPサーバを変更した場合は、XSCFをリポートしてください。 stratum値が正しく設定されていても時刻同期できない場合は、showntp(8)コマンドにより、表示されるjitter値を確認してください。この値が大きい場合は、XSCFをリポートしてください。
RTIF1-070904-006	ドメイン電源投入、ドメインリセット、またはDRの実行中にXSCFがリポートした場合、一部、またはすべてのXSBで、ドメイン電源投入、ドメインリセット、またはDR処理が中断されてしまう場合があります。	再度、ドメインリセットを実行するか、一旦ドメイン電源切断した後で電源投入を実施してください。
RTIF1-070912-001	不正なSMTPサーバが設定されていると、その後(setemailreport のCLIを使用して)emailサービスを無効化しようとしても、最長30分間ブロックされることがあります。	CLIが完了するのを待ってください。この間、システムの残りの部分は正常に機能します。 • CLIは、^C で中断することもできます。^C が使用された場合でも、操作(emailreportの無効化)が完了することにご注意ください。 • showemailreportコマンドを使って、サービスが無効化されていることを確認することができます。
RTIF1-070914-001	flushupdate(8)コマンドまたはBUIによりファームウェアアップデート実行中に、getflushimage(8)コマンドまたはBUIによってXCPのimportを実行した場合、ファームウェアアップデートが異常終了します。	ファームウェアアップデート中に、getflushimage(8)コマンドまたはBUIによるXCPのimportを実行しないでください。
RTIF1-070914-002	XSCFの切替えがおこなわれた時、モニタメッセージにActiveになったXSCFUの番号が表示されません。	showhardconf(8)コマンドを実行し、XSCFUの状態を参照してください。

表 5 XCP に関する特定の問題と回避方法 ( 続き )

ID	説明	回避方法
RTIF1-070914-003	XSCFの切替えがおこなわれた時、エラーログに"SCF: Board control error (DMA timeout)"が格納されている場合があります。	現時点では、有効な回避方法はありませんが、このメッセージは無視しても差し支えありません。
RTIF1-070914-005	XSCF WebでInternet Explorer 7を使用する場合、User Accounts画面において、User Local Accountsに各ユーザーのStatusが表示されません。	現時点では、有効な回避方法はありません。
RTIF1-070914-006	XSCFのユーザーアカウント名を最長の32文字に設定した場合、ログインはできますが、その後、XSCFシェルを実行またはXSCF Webを操作すると、"Permission denied"が発生します。	XSCFのユーザーアカウント名は31文字以下で設定してください。
RTIF1-070914-007	XSCF WebでInternet Explorerを使用し、Log Archivesを選択したとき、Status of Log Archiving画面にステータス情報が表示されません。	現時点では、有効な回避方法はありません。
RTIF1-070914-008	XSCF WebでSMTP画面から、POPまたはSMTP-authを選択し、Passwordを入力する時、入力値が"*"で表示されません。	現時点では、有効な回避方法はありません。
RTIF1-070914-009	XSCF WebでSMTP画面から、POPまたはSMTP-authを選択した時、入力値が空欄でも設定できてしまいます。 さらに、設定できたにもかかわらず、過去に設定した情報が表示されます。	現時点では、有効な回避方法はありません。
RTIF1-070914-010	XSCF WebでSNMPv3 Security Settings画面からSNMP User-Based Security Model(USM)のAdd UserまたはCopy Userを選択した際、Create or Copy User画面がポップアップ表示されます。 この画面のSNMP Userを16桁以上で設定した場合、正しく登録されますが、ウェブブラウザ画面では15桁までしか表示されません。	SNMP Userを16桁以上で設定している場合は、showsnmpusm(8)コマンドを使用してください。
RTIF1-070914-011	XSCF WebでSNMPv3 Security Settings画面からSNMP User-Based Security Model(USM)のChange Passwordを選択したとき、Change Password画面がポップアップ表示されます。 この画面においてConfirm Passwordが入力必須項目であるにもかかわらず、"*Indicates required field"が注記として表示されていません。	Confirm Passwordは入力必須項目であり、必ず設定してください。

表 5 XCP に関する特定の問題と回避方法 ( 続き )

ID	説明	回避方法
RTIF1-070914-012	XSCF WebのSNMP-Properties画面で、Trap Hostを選択せずにRemoveボタンを実行したとき、"The trap host will be removed" の不当なメッセージがポップアップ表示されます。さらに、ポップアップ画面でそのままOKを選択した場合、"Remove trap host failed. setsnmp: invalid trap type" の不当なメッセージが表示されます。	現時点では、有効な回避方法はありません。
RTIF1-070914-013	XSCF WebのAudit-Properties画面で、Add Policyボタンを実行した際、ポップアップ表示されたSet User PolicyのUserにXSCFに登録されていないユーザー名を指定して入力エラーが発生した場合、その指定したユーザー名をクリアするためにResetボタンを実行しても、入力した値がクリアされません。	正しいユーザー名を再度設定するか、Cancelボタンでポップアップ画面を閉じてください。
RTIF1-070914-014	XSCF Webで権限のないユーザーアカウントでSnapshotを選択し、Start timeやEnd timeのパラメータを設定し、Downloadボタンを実行したとき、権限エラーとならず、パラメータエラーが表示されます。	現時点では、有効な回避方法はありません。
RTIF1-070914-015	XSCF WebでUser Managerを選択し、ユーザーアカウントを追加するとき、指定するユーザー名が20文字までしか設定できません。	20文字以上のユーザー名を指定する場合は、adduser(8)コマンドを使用してください。
RTIF1-070914-016	XSCF WebでLDAPを選択し、LDAP設定を行う場合、LDAP Search Timeoutをデフォルト値"0" のままでSaveを実行したとき、"LDAP Configuration Update Failed. Save LDAP Configuration Data failed"となり、設定が格納できません。	LDAP Search Timeoutは、"0"は無効な値であるため、必ず 0以外の値を設定してください。
RTIF1-070914-017	XSCF WebでLDAPを選択し、LDAP Search Timeoutに最大値の2147483647秒以上の値を入力した時、パラメータエラーとなりません。	現時点では、有効な回避方法はありません。LDAP Search Timeoutには、最大値の2147483647秒が設定されます。
RTIF1-070914-018	XSCF Webで権限のないユーザーアカウントでLDAPを選択し、Deleteボタンを実行した場合、権限エラーとなりますが、表示されていた設定情報がクリアされ、削除されたように見えます。	設定は削除されていません。設定情報を再度表示する場合は、Menuの項目からLDAPを選択してください。

表 5 XCP に関する特定の問題と回避方法 ( 続き )

ID	説明	回避方法
RTIF1-070914-019	LDAP設定したときのユーザーアカウントと異なるユーザーアカウントで-cオプションを指定してshowldap(8)コマンドでLDAP設定を表示した場合、"Permission denied"が発生します。 また、XSCF WebでLDAP設定の表示した場合、ポップアップ画面に何の情報も表示されません。	LDAP設定を行ったときのユーザーアカウントを使用してください。
RTIF1-070914-020	User Manager画面のUser Account設定ページでパスワードの変更が"Change Password Error"になった時、REFRESHボタンをクリックすると、"No user. The request is aborted."のエラーメッセージが表示されます。	パスワードの変更を行う場合は、MenuのUser Managerを再度選択してしてください。
RTIF1-070914-021	Open BootPROM処理中にドメインの電源を切断すると、Domain hang-up detected (level3)のエラーログが登録される場合があります。	このエラーログは無視しても差し支えありません。
RTIF1-070914-023	Device Status画面でモデル毎のサポート外のドメインIDやXSBを指定するとパラメータエラーが表示されます。	モデル毎のサポート対象範囲のドメインID、XSB番号を指定してください。
RTIF1-070914-024	XSCF Webで物理ツリーを表示した時、PCIボックスのlinkカードにWarningが表示されません。	現時点ではありません。
RTIF1-070914-026	XSCFがすべてのドメインに対する信頼できるNTPソースとして、時刻同期できない場合がある。	時刻同期できない場合、すべてのドメインはXSCFではなく、外部のNTPサーバを使用してください。
RTIF1-070915-001	Domain Configuration画面でDomain Component Listを新規に定義する場合にパラメータエラーが表示されることがあります。	Domain Component Listを定義する場合はCLIを使用してください。

# Solarisに関する特定の問題と回避方法

表 6 に、既知の問題とこれらの問題に対して実行可能な回避方法を示します。

表 6 Solaris に関する特定の問題と回避方法

CR ID	説明	回避方法
6348554	<p>以下のカード上で <code>cfgadm -c disconnect</code> コマンドを使用すると、<code>i_mdi_pi_offline</code> 中にコマンドがハングすることがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• SG-XPCIE2FC-QF4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCI-E HBA</li><li>• SG-XPCIE1FC-QF4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fibre Channel PCI-E HBA</li><li>• SG-XPCI2FC-QF4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCI-X HBA</li><li>• SG-XPCI1FC-QF4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fibre Channel PCI-X HBA</li></ul>	<p>回避方法はありません。この不具合に対応したパッチが入手可能かどうか確認してください。</p>
6416224	<p>単一のNICカードの接続数が5,000を超えると、システムパフォーマンスが低下することがあります。</p>	<p>複数のNICカードを使用して、ネットワーク接続を分割してください。 これは、Solaris 10 8/07で修正されました。</p>
6440061	<p>ドメインのコンソールに、<code>ipsec_check_inbound_policy: Policy Failure for the incoming packet (not secure)</code>というメッセージが表示されることがあります。</p>	<p>このメッセージは無視しても差し支えありません。</p>
6441349	<p>システム内でI/Oエラーが発生したときに、システムがハングすることがあります。</p>	<p>現時点では、有効な回避方法はありません。 これは、Solaris 10 8/07で修正されました。</p>
6459540	<p>SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバの内蔵テープドライブユニットがテープの処理中にタイムアウトすることがあります。</p>	<p>以下の定義を、<code>/kernel/drv/st.conf</code> に追加してください。</p> <pre>tape-config-list = "SEAGATE_DAT DAT72-000", "SEAGATE_DAT DAT72-000", "SEAGATE_DAT DAT72-000"; SEAGATE_DAT DAT72-000= 1,0x34,0,0x9639,4,0x00,0x8c,0x8c, 0x8c,3; "SEAGATE_DAT"と"DAT72-000"の間には、4つの半角スペースがあります。</pre>

表 6 Solaris に関する特定の問題と回避方法 ( 続き )

CR ID	説明	回避方法
6466617	PCI-Express スロットのHot Plug操作が速すぎると、PCI リーフのリセットが中断されて障害が発生し、cfgadm: Component system is busy エラーが発生します。	cfgadm -c コマンドを続けて発行するときは、数秒の間隔をおいて発行してください。
6472153	SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバ以外のサーバ上にSolarisフラッシュアーカイブを作成し、それをSPARC Enterprise M4000/M5000 サーバにインストールすると、コンソールのTTY フラグが正しく設定されません。その結果、コンソールのハングを引き起こすことがあります。	インストールした直後にSPARC Enterprise M4000/M5000 サーバにtelnetで入り、コンソールのTTYフラグを以下のようにリセットします： # sttydefs -r console # sttydefs -a console -i "9600 hupcl opost onlcr crtscts" -f "9600"  この作業は1回だけ実行してください。
6481002	PCI-Expressカードを使用してネットワークからSolarisをインストールすると、パニックが発生することがあります。	Sun PCI-E Dual Gigabit Ethernet Adapter MMFカードまたはSun PCI-E Dual Gigabit Ethernet Adapter UTPカードを使用している場合は、これらのカードを使用してSolarisをインストールしないでください。代わりに、オンボードのGigabit Ethernetなど、他のネットワークデバイスを使用してください。
6485555	レースコンディションにより、オンボードのGigabit Ethernet NVRAMに障害が発生します。このレースコンディションが発生する可能性は、非常に低いものです。	現時点では、有効な回避方法はありません。これは、Solaris 10 8/07で修正されました。
6495303	PCIe Dual - Port Ultra320 SCSIコントローラカード(SG - (X)PCIE2SCSIU320Z)を、SPARC Enterprise M4000/M5000サーバのIOU slot 1で使用すると、システムパニックが発生することがあります。	このカードを、SPARC Enterprise M4000/M5000サーバ上のIOU Slot 1で使用しないでください。 これは、Solaris10 8/07で修正されました。

表 6 Solaris に関する特定の問題と回避方法（続き）

CR ID	説明	回避方法
6496337	<p>uncorrectable error (UE) パニック後、"cpumem-diagnosis" モジュールのロードに失敗することがあります。システムは正しく機能しますが、通常このモジュールを使用しFMAによって自動的に診断されているイベントは、マニュアルでの診断が必要になります。</p> <p>例：</p> <p>SUNW-MSG-ID: FMD-8000-2K, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor</p> <p>EVENT-TIME: Thu Feb 15 15:46:57 JST 2007</p> <p>PLATFORM: SUNW, SPARC-Enterprise, CSN: BE80601007, HOSTNAME: col2-ff-em7-d0</p>	<p>問題が発生した場合、以下を実施してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 以下のファイルを削除してください。 # rm /var/fm/fmd/ckpt/cpumem-diagnosis/cpumem-diagnosis</li> <li>2. fmdサービスをリスタートしてください。 # svcadm restart fmd</li> </ol> <p>問題を事前に回避する場合、 /lib/svc/method/svc-dumpadm の以下の場所に "rm -f /var/fm/fmd/ckpt/cpumem-diagnosis/cpumem-diagnosis" を追加してください。</p> <pre># # We haven't run savecore on a dump device yet # savedev=none  rm -f /var/fm/fmd/ckpt/cpumem-diagnosis/cpumem-diagnosis  #</pre> <p>これは、Solaris 10 8/07で修正されました。</p>
6498283	<p>ドメインで psradm を操作中に DR の deleteboard(8) コマンドを使用するとシステムがパニックすることがあります。</p>	<p>回避方法はありません。この不具合に対応したパッチが入手可能かどうか確認してください。</p> <p>これは、Solaris 10 8/07 で修正されました。</p>
6499304	<p>Correctable Error (CE) が多数発生すると、CPUがオフラインにならず、予期しないメッセージがコンソール上に表示されます。</p> <p>例:</p> <p>SUNW-MSG-ID: FMD-8000-11, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor</p> <p>EVENT-TIME: Fri Feb 2 18:31:07 JST 2007</p> <p>PLATFORM: SPARC-Enterprise, CSN: BE80601035, HOSTNAME: FF2-35-0</p>	<p>XSCFでCPUステータスを確認してください。</p> <p>これは、Solaris 10 8/07で修正されました。</p>

表 6 Solaris に関する特定の問題と回避方法（続き）

CR ID	説明	回避方法
6502204	<p>CPU UEパニック後、ブート中に、予期しないエラーメッセージがコンソール上に表示されることがあります。</p> <p>例:            SUNW-MSG-ID: FMD-8000-11, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor            EVENT-TIME: Tue Jan 9 20:45:08 JST 2007            PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise,            CSN: 2030636002, HOSTNAME: P2-DC1-16-d0</p>	<p>予期しないメッセージが表示されたら、XSCFのshowdomainstatus(8)コマンドでドメインステータスを確認してください。</p> <p>これは、Solaris 10 8/07 で修正されました。</p>
6502750	<p>PCI Hot Plugによるカードの挿入または取り外しに対する通知メッセージが出力されないことがあります。</p>	<p>現時点では、有効な回避方法はありません。</p> <p>これは、Solaris 10 8/07 で修正されました。</p>
6508432	<p>I/Oスロット1またはPCIボックスにおいて、Correctable エラー（CE）が大量に発生した場合、修正可能なエラーであるにも関わらず、ドメインがパニックすることがあります。</p>	<p>/etc/system に以下の設定を行い、ドメインをリブートしてください。</p> <pre>set pcie:pcie_aer_ce_mask = 0x2001</pre> <p>これは、Solaris 10 8/07で修正されました。</p>
6508434	<p>PCI Hot Plugにより、PCI-Xカードの増設およびPCI-Xの交換を行うとドメインがパニックする場合があります。</p>	<p>PCI Hot Plug 機能により、同一スロット上のPCI-Xカードの種類を変更しないでください。</p> <p>これは、Solaris 10 8/07で修正されました。</p>
6509337	<p>s10s_u3WANブートに失敗し、サーバが「416: Requested Range Not Satisfiable」を返しました。</p>	<p>現時点では、有効な回避方法はありません。</p>
6510779	<p>大規模シングルドメイン構成上、システムが誤って非常に高い負荷平均を報告することがあります。</p>	<p>回避方法はありません。</p>
6510861	<p>Dual-Channel Ultra320 SCSI Card (SE0X75C2F, SE0X75C2X)を搭載している場合、correctable error (CE) が発生するとパニックします。</p>	<p>Dual-Channel Ultra320 SCSI Card (SE0X75C2F, SE0X75C2X)を搭載した場合に、これらのエラーをマスクするには、以下を/etc/system のファイルに追加してから、ドメインをリブートしてください:</p> <pre>set pcie:pcie_aer_ce_mask = 0x31c1</pre> <p>これは、Solaris 10 8/07で修正されました。</p>
6511374	<p>システム構成変更後、予期しないエラーメッセージがコンソール上に表示されることがあります。</p> <p>例:            WARNING: Translation error source            /LSB0/B0/0, PA 3c00000000, target            /LSB0/B0/20000000</p>	<p>このメッセージは無視しても差し支えありません。</p>

表 6 Solaris に関する特定の問題と回避方法（続き）

CR ID	説明	回避方法
6515648	dr@0:SB1::memoryの失敗時、「Replumb Failed」の問題が発生します。	DR操作が完了したら、手動で設定できます。インターフェースを手動で再設定する手順の例は、次のとおりです。 <pre># ifconfig interface plumb xxx.xxx.xxx.xxx netmask + broadcast + up # ifconfig interface group group-name # ifconfig interface addif xxx.xxx.xxx.xxx -failover deprecated up</pre> <p>この回避方法は、/etc/hostname.&lt;interface&gt;ファイルがIPMPグループに対して正しく設定されており、修正の必要がないことを前提としています。上述の例で使用しているIPアドレスは、以前使用していたIPアドレスおよび/etc/hostname.&lt;interface&gt;ファイルと一致していなければなりません。</p>
6516135	cfgadm(1M)によりデバイスや Ap_Id が正しく表示されないことがあります。	以下の操作を使用して、すべてのPCIスロットを表示してください。 1) devfsadm (at Solaris prompt) 2) cfgadm
6519290	スワップデバイス上の大量のI/OがI/O性能をはるかに上回ることによって、システムがハングしたように見える場合があります。必要とされるI/Oの量は、メモリの不足や/tmpの頻繁な使用など、さまざまな方法で生成される可能性があります。	以下を /etc/system のファイルに追加してから、ドメインをリブートしてください。 <pre>set maxfastscan=0x2000</pre>
6520990	Dynamic Reconfiguration (DR) によるカーネルボードの deleteboard(8)コマンドを実施した場合、ドメインがパニックすることがあります。	この問題を回避するために、以下を /etc/system のファイルに追加してからリブートしてください。 <pre>set drmach:fmem_timeout = 30</pre> これは、Solaris 10 8/07 で修正されました。
6522017	ZFSファイルシステムを使用しているドメインでは、DRが失敗することがあります。	etc/system に zfs_arc_max パラメータを設定し、ZFSが割り当てられるカーネルメモリ量を減らしてください。以下の例は、512Mバイトに設定しています。 <pre>set zfs_arc_max = 0x20000000</pre>
6522433	CPUハードエラーが発生した後、ドメイン上の fmdump(1M)コマンドで表示される故障コンポーネントが誤って表示されることがあります。	XSCFでシステムステータスを確認してください。

表 6 Solaris に関する特定の問題と回避方法 ( 続き )

CR ID	説明	回避方法
6527811	PCI カードを搭載したPCI ボックスを PCI hotplug で追加した場合、PCI ボックス内の PCI カードの情報が XSCF の showhardconf(8)で表示されません。	現時点では、有効な回避方法はありません。ただし、PCI ボックス内のそれぞれのPCI カードを PCI hotplug で追加した場合は、PCI カードの情報は正しく表示されます。
6529714	1台のI/Oポートに4枚を超えるX4447A-ZカードまたはX1027A-Z1カードを組み込もうとすると、警告メッセージが表示されます。	現時点では、有効な回避方法はありません。
6530178	DR のaddboard(8)コマンドがハングする場合があります。問題が検出されると、それ以上のDR操作はブロックされます。復旧にはドメインのリブートが必要です。	回避方法はありません。 これは、Solaris 10 8/07 で修正されました。
6530288	cfgadm(1M) コマンドで表示される Ap_Id が正しく表示されないことがあります。	現時点では、有効な回避方法はありません。 これは、Solaris 10 8/07 で修正されました。
6530753	PCIボックスのPCIスロットの一部が、通常のブート動作中に表示されません	以下の操作のいずれかを使用して、すべてのPCIスロットを表示してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• boot -r (at open boot prompt)</li> <li>• devfsadm -C (at Solaris prompt)</li> <li>• cfgadm (twice at Solaris prompt)</li> </ul>
6531036	ネットワークインストール後、network initialization failed のエラーメッセージが繰り返し表示されることがあります。	現時点では、有効な回避方法はありません。メッセージを無視してください。
6531668	DR中にHot Plug処理を多重で実行すると、システムがハングします。	現時点では、有効な回避方法はありません。
6532215	ドメインのブート時に volfs や dscp サービスの起動が失敗することがあります。  <pre>svc:/platform/sun4u/dscp:default: Method "/lib/svc/method/svc-dscp start" failed with exit status 95.</pre>	ドメイン起動後にサービスを再起動してください。 本問題を事前に回避する場合は以下を設定してください。  <pre># svccfg -s dscp setprop start/timeout_seconds=count: 300 # svccfg -s volfs setprop start/timeout_seconds=count: 300 # svcadm refresh dscp # svcadm refresh volfs</pre>
6534471	ドメインがパニックすることがあります。	以下を /etc/system のファイルに追加してから、ドメインをリブートしてください。 <pre>set heaplp_use_stlb=0</pre> これは、125100-06およびSolaris 10 8/07で修正されました。

表 6 Solaris に関する特定の問題と回避方法（続き）

CR ID	説明	回避方法
6535564	DR で追加したシステムボード上の PCI スロット #0, #1 または PCI ボックスに対する PCI Hot Plug が失敗することがあります。	回避方法はありません。PCI Hot Plug の代わりに DR によりカードの追加・削除を実施してください。 これは、Solaris 10 8/07 で修正されました。
6536564	I/O デバイスでハードエラーが発生した場合、Solaris Fault Management Architecture が正しい診断をしないため、XSCF 上の showlogs(8) や showstatus(8) コマンドが誤った故障箇所を表示することがあります。	この問題を回避するために、以下をドメインで実行してください。  # cd /usr/platform/SUNW,SPARC-Enterprise/lib/fm/topo/plugins # mv ioboard.so ioboard.so.orig # svcadm restart fmd  上記を設定後、以下のメッセージが表示された場合は、営業担当者または当社技術員にご連絡ください。  例： SUNW-MSG-ID: SUNOS-8000-1L, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Sun May 6 18:22:24 PDT 2007 PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: BE80601007, HOSTNAME: sparc これは、125369-05 で修正されました。
6537511	セキュリティテスト実行中に Bluetooth パートナーがハングします。	アプリケーションサーバを再起動してください。
6539084	Sun 製の PCIe Quad-port Gigabit Ethernet アダプター UTP カード (X4447A-Z) がリブート中にパニックすることがあります。	回避方法はありません。 これは、125670-01 で修正されました。
6539909	boot net install コマンドを使用して Solaris OS をインストールしているとき、ネットワークアクセスに以下の I/O カードを使用しないでください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• X4447A-Z/X4447A-Z, PCIe Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP</li> <li>• X1027A-Z/X1027A-Z, PCIe Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP</li> </ul>	Solaris 10 11/06 が稼働中の場合は、代替のネットワークカードまたはオンボードネットワークデバイスを使用し、ネットワーク経由で Solaris OS をインストールしてください。  この不具合は、Solaris 10 8/07 には存在しません。
6542632	driver attach が失敗すると、PCIe モジュールにメモリアリークが発生します。	回避方法はありません。 これは、Solaris 10 8/07 で修正されました。

表 6 Solaris に関する特定の問題と回避方法（続き）

CR ID	説明	回避方法
6545685	OSコンソールに以下のメッセージが表示された場合、以降のリポートにおいて、メモリ縮退もしくはXSB縮退が発生することがあります。 例： mc-opl: WARNING: mc-opl rewrite timeout on /LSB0/B0	/etc/systemに以下の設定を行い、ドメインをリポートしてください。 set mc-opl:mc_max_rewrite_loop = 10000
6546188	以下のカード上でホットプラグ(cfgadm)およびDR操作(addboardおよびdeleteboard)を実行中、システムがパニックします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP</li> <li>• X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter</li> </ul>	回避方法はありません。この不具合に対応したパッチが入手可能かどうか確認してください。
6551356	これまで未設定だったカードを設定するためにhotplug (cfgadm) を実行中、システムがパニックします。システムがパニックする直前に、"WARNING: PCI Expansion ROM is not accessible" というメッセージがコンソール上に表示されます。この不具合によって、以下のカードが影響を受けます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP</li> <li>• X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter</li> </ul>	cfgadm -c disconnect を実行し、カードを完全に削除してください。最低10秒間待ってから、cfgadm -c configure コマンドを使用して、カードを元のドメインに設定することができます。
6556742	DR中、DiskSuiteがmetadbを読めないとき、システムがパニックします。このバグは、以下のカードに影響します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• SG-XPCIE2FC-QF4, 4Gb PCI-e Dual-Port Fibre Channel HBA</li> <li>• SG-XPCIE1FC-QF4, 4Gb PCI-e Single-Port Fibre Channel HBA</li> <li>• SG-XPCI2FC-QF4, 4Gb PCI-X Dual-Port Fibre Channel HBA</li> <li>• SG-XPCI1FC-QF4, 4Gb PCI-X Single-Port Fibre Channel HBA</li> </ul>	metadbの複製データに別のHost Bus Adaptor経由でアクセス可能であれば、パニックは回避できます。または、パッチ125166-06を適用することができます。

表 6 Solaris に関する特定の問題と回避方法（続き）

CR ID	説明	回避方法
6559504	<p>以下のカードを使用すると、コンソール上に、 "nxge: NOTICE: nxge_ipp_eccue_valid_check: rd_ptr = nnn wr_ptr = nnn" という形式のメッ セージが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP</li> <li>• X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter</li> </ul>	<p>このメッセージは無視しても差し支えありませ ん。</p>
6568417	<p>CPU DR deleteboard 操作が正常終了後、以 下のネットワークインターフェースを使用 中に、システムがパニックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP</li> <li>• X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter</li> </ul>	<p>/etc/system に以下を追加し、システムをリ ブートしてください。</p> <pre>set ip:ip_soft_rings_cnt=0</pre>
6589833	<p>DRのaddboardコマンドを使用し、Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCI-E HBA card (SG- XPCIE2FC-QF4)の追加を、SAPプロセスがこの カードに取り付けられているストレージデバイ スにアクセスを試みるのと同じタイミングで行 おうとすると、システムのハングを引き起こす ことがあります。以下のカードが、情報量の多 いネットワークトラフィック上で使用されてい ると、システムハング発生の可能性が高まりま す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP</li> <li>• X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter</li> </ul>	<p>回避方法はありません。この不具合に対応した パッチが入手可能かどうか確認してください。</p>

## ターゲットボードのカーネルメモリの識別

1. XSCFにログインします。
2. 次のコマンドを実行します。

```
XSCF> showdevices -d domain_id
```

次の例は、showdevices -dコマンドの出力を示したもので、0 はdomain\_id です。

```
XSCF> showdevices -d 0
```

```
...
```

```
Memory:
```

```
-----
```

DID	XSB	board mem MB	perm mem MB	base address	domain mem MB	target XSB	deleted mem MB	remaining mem MB
00	00-0	8192	0	0x0000000000000000	24576			
00	00-2	8192	1674	0x000003c000000000	24576			
00	00-3	8192	0	0x0000034000000000	24576			

```
...
```

4列目の「perm mem MB」のエントリの値がゼロ以外の場合、カーネルメモリが存在することを示します。

この例は、1674MBのカーネルメモリが00-2にあることを示しています。

ボードにカーネルメモリがある場合、deleteboardコマンドまたはmoveboardコマンドを実行すると、次の通知が表示されます。

```
System may be temporarily suspended, proceed? [y|n]:
```

## XCP 1050へのアップグレード準備

1. "admin" と名づけられたアカウントを削除します。

showuser -luコマンドを使って、すべてのXSCFアカウントを一覧表示させます。"admin" と名づけられたアカウントはいずれも、XCP 1050へのアップグレードの前に削除しなければなりません。このアカウント名が、XCP 1050以降用に予約されます。アカウントを削除するには、deleteuserコマンドを使用してください。

# XCP 1050へのアップグレード

---

注 – XSCFのリセット時に、LAN接続が切断されます。XCPアップグレード手順を簡素化するため、XSCFシリアル接続を使用することを推奨します。

---

1. プラットフォーム管理権限をもつアカウントで、XSCFUにログインします。
2. `showstatus` コマンドを使用して、FaultedまたはDeconfiguredの状態にあるコンポーネントが存在していないことを確認します。

```
XSCF> showstatus
```

システム初期化中、障害が見つからなければ、`showstatus` プロンプトが返ります。リストに何かが表示された場合、次の手順に進む前に、公認の保守担当者に連絡してください。

---

注 – BUI、あるいは`snapshot(8)`コマンドを使用して情報を採取してください。この情報は、万が一、本手順実行中に問題が発生した場合の原因解析に役立ちます。

---

3. すべてのドメインを電源オフします。

```
XSCF> poweroff -a
```

4. すべてのドメインが停止していることを確認します。

```
XSCF> showlogs power
```

5. オペレータパネルのキー位置をLockedからServiceに変更します。
6. XSCF snapshotを収集し、アップグレード前のシステムステータスをアーカイブします。
7. BUIを使用して、XCP 1050のアップグレードイメージをアップロードします。

- flashupdate(8)コマンドを使用して、ファームウェアをアップデートします。



**注意** – Flashupdate コマンドは、片方の bank をアップデートし、XSCF をリセットしてから、もう片方の bank のアップデートを開始します。current と reserve の bank が両方ともアップデートされたことを確認してください。両方の bank が XCP 版数 1050 を表示したら、次の手順に進んでください。

```
XSCF> flashupdate -c update -m xcp -s 1050
```

アップデートするXCPの版数を指定します。この例では、1050です。

- アップデートの完了を確認します。

```
XSCF> showlogs event
```

アップデート中に異常が発生しないことを確認します。

- XSCFU#0のcurrentとreserveの両方のbankが、アップデートされたXCP版数を表示することを確認します。

```
XSCF> version -c xcp  
  
XSCF#0 (Active)  
XCP0 (Reserve): 1050  
XCP1 (Current): 1050
```

XSCF#0のCurrentおよびReserveのbankがXCP版数1050を表示しない場合、公認のサービス担当者に連絡してください。

- showlogs error -v および showstatusコマンドを使用して、異常が発生していないことを確認します。

```
XSCF> showlogs error -v  
XSCF> showstatus
```

XSCFのハードウェアに何らかの異常を見つけた場合は、公認のサービス担当者に連絡してください。

- すべてのドメインを電源オンします。

```
XSCF> poweron -a
```

13. XSCFU#0にログインし、すべてのドメインが正しく起動することを確認します。

```
XSCF> showlogs power
```

14. 新たなエラーが発生していないことを確認します。

```
XSCF> showlogs error
```

異常が見つかった場合は、適切な保守作業を行ってください。異常が見つからなければ、[Step 15](#)に進んでください。

15. オペレータパネルのキースイッチ位置をServiceからLockedに戻します。

# ソフトウェアマニュアルの変更予定

ここでは、SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバのソフトウェアマニュアルに関して、出版後にわかった最新のソフトウェアに関する情報やマニュアルの変更予定を示します。

なお、『SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000サーバ XSCFリファレンスマニュアル』に関する変更内容は、特に断りのないかぎり、マニュアルページにも適用されます。また、マニュアルページの情報よりも優先されます。

表 7 に、マニュアルの変更予定を示します。

表 7 マニュアルの変更予定

マニュアル	ページ	変更内容
SPARC Enterprise M4000/M5000 サーバに関するすべてのドキュメント		すべてのDVD という表記は、CD-RW/DVD-RWに読み替えてください。
SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF ユーザーズガイド	2-24	表2.4 ユーザー管理設定 のパスワードポリシーの備考欄 「6 文字以下のパスワードは指定できません。」という記述は、「パスワード最低文字数 (Minlen) は6です。」と読み替えてください。
SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ XSCF リファレンスマニュアル	switchscf(8) マニュアルページ	switchscf(8)コマンドでは新たに-n/-q/-yオプションがサポートされるようになりました。したがって【形式】は以下のように変更されます。  switchscf [[-q] [-y n]] -t {Active   Standby} [-f] switchscf -h  -n/-q/-yオプションの意味は、それぞれ以下のとおりです。 -n: プロンプトに対して自動的に"n" (no)と応答します。 -q: プロンプトを含む、標準出力へのメッセージを表示しないようにします。 -y: プロンプトに対して自動的に"y" (yes)と応答します。

